



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 195号 2010.11.13 発行 社会政策研究所

毎日新聞に3日間連載された地域生活支援センターのレポートをお届けします。これと各地からの明るい話題と暗い話題を織り交ぜてお届けします。じっくりお読みください。
【kobi】

地域包括支援センターは今：ノ上 高齢者見守りに情報の壁

毎日新聞 2010年11月10日

高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう支援する「地域包括支援センター」は、全市区町村に設置されている。しかし、導入から4年半たった今も、存在すら知らない住民もいる。認知症や1人暮らしなど自ら支援を求めることのない高齢者が増えるなか、そうした高齢者を見つけ出し、支援に結びつけるセンターの役割は重要になっている。現在進んでいる介護保険法改正の議論でもセンターの相談体制をどう充実させるかがテーマになっている。現場を歩き、課題を探った。【有田浩子】

市の協力がなく実態不明 職員の努力では限界

「気になる高齢者のお宅を見回りしてください」。熱波が日本列島を襲った今年8月、佐賀市東与賀地域包括支援センターの久保英樹センター長（41）の元に高齢者の熱中症対策を呼びかけるメールが、市高齢福祉課から届いた。しかし、担当地域に見回りが必要になりそうな1人暮らしの高齢者がどこに住んでいるのか、久保さんは知らなかった。市は情報を把握しているが「本人の同意なしには情報は流せない」（高齢福祉課）と、個人情報保護を理由に提供していない。「基礎情報も共有していないのに、どうやって見回れというのか」。メールを見た久保さんは途方に暮れた。

地域包括支援センターは06年の介護保険法改正で新たに高齢者の「よろず相談所」として設けられ、現在では全国4000カ所以上、全市区町村に設置されている。久保さんのセンターは09年4月に佐賀市から委託を受け、旧東与賀町（07年に佐賀市に編入）の地域を担当している。職員は久保さんを含めて3人だが、担当地域の65歳以上の高齢者は約1700人だ。活動開始当初に市がセンターに提供した情報は、センターが介護プランを作成する必要がある要支援1～2の高齢者と、介護状態になる可能性の高い高齢者など約100人で、担当地域の高齢者の1割にも満たなかった。

センターにかかってくる相談の電話に対応するだけでなく、高齢者宅への訪問などを通じて顔なじみの関係を作り介護サービスに結びつけたり、介護予防事業への参加を促す。久保さんたちはこれまでの活動で老人会や自治会、民生委員らとの会合を重ね、1人暮らしの高齢者などを少しずつ把握していった。

しかし、支援を必要としながらも、声を上げないままの高齢者を見つけるには、個人的なつながりだけでは限界がある。1人暮らしや認知症の高齢者など、支援が必要になる可能性が高い高齢者をきちんと把握した上で訪問ができれば効率的だし、住民のためにもなる。だが、市との間に横たわる「情報の壁」は厚い。

市は高齢者の熱中症対策をセンターだけでなく、民生委員や老人会など関係者に呼びか

けており、今夏は幸い、熱中症による犠牲者は出なかった。

個人情報保護を理由に、活動に必要な情報を自治体などから提供されない地域包括支援センターは少なくない。社会福祉に詳しい大阪市立大の岩間伸之准教授は、「情報を提供しないでセンターに『足で稼げ』と言うだけでは、問題の予防や解決は難しい。情報を一律に流せばいいとは思わないが、行政の情報管理には行きすぎた面がある。目的や根拠を明確にしたガイドラインを作った上で対応していくことが重要だ」と指摘する。

地域包括支援センター

保健師、社会福祉士、介護福祉士などの専門職が連携し、高齢者の支援を行う総合機関。困りごとの相談や、要支援の高齢者の介護予防プラン作成、住民からの虐待通報を受けての対応などのほか、民生委員やケアマネジャーが対応しきれない事例も担当する。自治体の直営が全体の約3分の1、残りが委託を受けた民間事業者。介護保険の地域支援事業費から委託費が出ている。体制や取り組みには地域差がある。独自の通称を使っているケースもある。

地域包括支援センターは今：ノ中 虐待の把握、難しく

毎日新聞 2010年11月11日

身内かばう高齢者 情報生かせず死亡事件も

地域包括支援センターは高齢者虐待の通報窓口にもなっている。通報があれば自治体などと協力して対策をとる。虐待は介護で疲れ切った家族によって行われることがあるが、身内をかばって高齢者本人がSOSを出すことは少なく、発見は容易ではない。大阪府内で今年8月に起きた2件の高齢者死亡事件の現場を歩くと、センターが抱える苦悩が浮かび上がった。

約1300世帯が暮らす大阪府寝屋川市の団地で8月25日夜、景由綾子さん（当時86歳）が3階の自宅窓から転落し、搬送先の病院で死亡した。長男が「母親を殴った」と話したため逮捕され、長男の妻も数日後に逮捕された。2人は、綾子さんに日常的に暴力を振るっていたという。

「家からドスンという音や悲鳴が聞こえる」。地域を担当する東北地域包括支援センターに、綾子さんの家庭に問題がありそうだと民生委員から連絡が入ったのは、事件3カ月前の5月中旬。市の指示を受けながら、センター職員は実態把握に努めた。

7月7日、センター職員は綾子さんから直接、息子夫婦から暴力を受けていたことを聞く。それまでに4度会っていたが、顔のあざやひっかけ傷を「自分でやった」と話していたという。同9日、市と同センターは会議で、綾子さんに対する虐待を認定するが、介護施設などに移して保護することは見送った。「本人におびえた様子がなかった」（寝屋川市）ことなどから緊急性は低いと判断した。

センターの職員は同15日、長男に介護保険によるデイサービスの利用を勧め、長男も「母がそれでいいなら」と同意した。介護の苦勞を少しでも和らげることが目的だった。しかし、それ以降、綾子さんとは接触できなくなり、事件は起きた。

警察の調べに長男は「今年1月ごろから、母親の認知症がひどくなった」と話しているというが、市やセンターはそこまで把握していなかった。毎日新聞の調べでは、今年5月末、団地の広場付近で住人が長男に足げりされる綾子さんを見ている。

センターの職員は「この件は、市が一括して説明することになっている。何も話せない」と口を閉ざす。市は「もっと幅広く情報を集めるように指示すべきだった」と反省を口にした。ただ、センターなどが虐待の有無を調査する場合、「あの家庭は虐待があるらしい」などの風評がたつ恐れがあるため、誰にでも話が聞けるわけではないという。

高齢者虐待の大半は家庭内で起きており、全国で毎年20人以上が死亡している。寝屋川市では09年度、高齢者の虐待に関して58件通報があり、24件で虐待を確認。うち11件で高齢者を介護施設などに移して保護した。

大阪府大東市の松本国世さん（当時76歳）は長男＝傷害罪で起訴＝から暴行を受け、

8月30日に死亡した。国世さんは長男と2人暮らしで、近所との付き合いがほとんどなく、住民も虐待を受けていることを知らなかった。しかし、起訴状によると長男は半年前ごろから、ほぼ連日、殴ったりつねったりしていた。国世さんは2年前から認知症だった。

地域を担当していた東部地域包括支援センターの管理者、梶山登美子・主任ケアマネジャーは「近所の人や民生委員からの情報はなかった。申し訳ないが私たちも訪問したことがなかった」と残念そうに唇をかんだ。

東京都内のセンターの職員は「老人会や民生委員を回っているときに入る、虐待かもしれないという情報をフォローしている。介護予防のプラン作りなどで忙しく、自分で問題を発見できるほど余裕はない」と語る。関係者と連携しながらの、虐待の情報が集まりやすいネットワークの構築が不可欠だ。

高齢者虐待に詳しい井上計雄弁護士は「センターの判断が不十分な場合もあれば、自治体が高齢者の保護などの権限行使に戸惑う場合もある。センターを生かすためにも、弁護士や社会福祉士などの助言を早めに受けたほうがいい」と、専門家との連携も重要だと指摘する。【有田浩子】

地域包括支援センターは今：／下 自治体の意識に差

毎日新聞 2010年11月12日

高齢者把握へ情報共有／独自予算上乘せも

東京都に隣接するベッドタウン埼玉県和光市は、65歳以上の高齢者ほぼ全員の健康状態や食生活などのデータをそろえた介護予防マネジメントシステムがあり、市内4カ所の地域包括支援センターと情報を共有している。センター職員は高齢者宅への訪問などにデータを活用し、効果を上げている。他の自治体からの視察も多く、国は同市を参考に10年度から、57自治体で高齢者把握のモデル事業を始めた。10月のある日、同市の地域包括支援センター職員、安達淑恵さん(40)に同行した。

「以前は、死ぬことばかり考えていました」。最初に訪問した、一戸建てに1人暮らしの女性(89)はそう話した。しかし、表情はとても明るい。

安達さんが女性の自宅を初めて訪問したのは2年前にさかのぼる。市外に住む女性の娘が「母の足腰が弱って、ごみが捨てられない」と市役所を訪れたことがきっかけだった。市から連絡を受けた安達さんはパソコン上で女性のデータを確認した上で訪問した。

ごみがたまった部屋で、娘に付き添われた女性から話を聞いたところ、「尿失禁に悩んで、ずっと外に出られなかった」と告白した。外出がおっくうになったことで、足腰も弱くなってしまったようだ。「どうして話してくれなかったの」と女性の娘は驚き、2人で泣き崩れたという。その後、安達さんは女性を体操など介護予防事業に誘い、今では坂道を上った先のごみ集積所にも通えるようになった。安達さんが紹介したヘルパーが週1回通うなどで、自宅もきれいになった。「かかわった方とは一生のお付き合いです」と安達さんは話す。

この日は1人暮らしの認知症の女性や、糖尿病の男性を自宅に訪ねたほか、デイサービスの施設に通う男性の様子も見回った。訪問した高齢者の現状を、安達さんは市の介護予防マネジメントシステムに追加する。記録は市の担当者と市内のセンターの職員がパソコンで見ることができる。このため、別の職員もこの日訪ねた人たちの最新の状態を知ることができる。

記録的な暑さとなった今夏、安達さんは同じセンターの職員と手分けをして、担当地域の独居高齢者に電話をかけ、熱中症の予防を呼びかけた。電話で体調が悪いと分かった高齢者宅には訪問して、介護サービスを勧めるなどの対応をとった。こうした活動が迅速にできるのは、介護予防マネジメントシステムがあるからだ。住民基本台帳と連動した同システムは、和光市が05年度から始めた事業で、65歳以上の高齢者全員に毎年行っている心身の健康状態や食生活の実態調査に基づいている。

安達さんが介護予防のプラン作成や、定期訪問でかかわる高齢者は現在100人を超え

る。台帳を参考に、時々電話して様子を確認する人を含めると数百人になる。

また、地域包括支援センターの存在が周知されるにつれて相談は増え続けており、内容は多岐にわたる。借金や病気、障害に関する相談など、介護だけでは解決できないケースも飛び込んでくる。生活保護や障害者にかかわる案件では、市の担当課と連携する。高齢者や家族とともに、医者や弁護士を訪れることもある。「私たちにはここまでしかできない、とは言えない。すべてセンターで抱え込まないように連携体制をとっていきたい」と安達さんは語る。

河合克義・明治学院大教授は「センターの活動内容は、理念としては福祉の幅広い領域を含んでいる。しかし高齢者の孤独死や所在不明高齢者問題などは深刻で、十分機能しているとはいえない」と話す。

昨年、関西地区560のセンターに調査（回答数167）を行った小川栄二・立命館大教授は「自治体からの委託費は保健師など専門職3人で平均1500万円。ベテラン職員を置く人件費としては足りない。対象となる高齢者の数に比べ職員数は少なく、職員は熱意を持って仕事をしているのに、やれるところまでしか手が出せないのが現状」と指摘する。地域包括支援センターの活動には、介護保険の地域支援事業費があてられているが、独自予算を上乗せする自治体もあり、自治体間で活動内容は大きく異なっている。「どのように人材を養成し、財源を確保していくのか。自治体の考えが問われている」（小川教授）といえる。【有田浩子】

チクバ病院に一般建築部門優秀賞 倉敷市建築文化賞

最優秀賞のチクバ外科・胃腸科・肛門科病

奨励賞の誠和会在宅センターとグループホームCOZY



倉敷市は12日、美しい景観づくりに貢献している建築物を顕彰する「第10回倉敷市建築文化賞」を発表した。一般建築部門の優秀賞にチクバ外科・胃腸科・肛門科病院（同市林）、奨励賞に誠和会在宅センター（同市中島）とグループホームCOZY（コージー）（同）を選んだ。17日に市役所で表彰する。

チクバ病院は洗練されたデザインに加え、白を基調とした外観が清潔感を醸し出している点が評価された。

誠和会在宅センターは日光を取り入れる開放的な形状で、屋上庭園を配するなど周辺環境への配慮がうかがえる点、COZYは丸みを帯びた屋根など威圧感のないデザインが、受賞につながった。

課題解決へ“夢”事業 彦根で13日 有志らプレゼン

京都新聞 2010年11月12日

会合で社会問題の解決を目指した事業計画や発表内容を考える参加者たち（9月19日、彦根市・ひこね燦ばれず）

社会的課題の解決を目指し、夢の事業を発表する「ドリームプラン・プレゼンテーション滋賀」が13日午後2時から、彦根市のひこね市文化プラザで催される。6人の提案者が障害者雇用の促進や地域スポーツの活性化など、事業の理念やビジョンを10分間で伝え、会場で共感できる仲間を募り実現を図る。



障害者就労支援やスポーツ活性化... 仲間募り実現へ

滋賀県で広告制作会社や飲食店などを経営する20～30代の10人でつくる「夢支援会滋賀」が、県内で初めて催す。

今年5～6月に説明会を開催。趣旨に賛同した約60人が、同会メンバーや仲間と話し合いを重ね、うち13人が病気や挫折など個人や家族の体験をベースにした事業計画をとりまとめた、という。

11日には、彦根市内で予選があり、20～40代の13人が映像やイラストを用いて、障害者の就労を支援する会社づくりや、子どもからお年寄りまで多くの種目を楽しめる地域総合型スポーツクラブの設立などを紹介。6人が本選の出場権を得た。

13日の本選では、6人がそれぞれ事業計画を発表し、来場者の投票により「感動大賞」「共感大賞」の二つを選ぶ。

ドリームプラン・プレゼンテーションは、起業家支援に取り組む東京の経営者が2007年に始め、10年には全国30カ所超で行われる。実行委の尾崎雄実行委員長（26）は「夢をかなえるには、共感する仲間が必要だ。多くの賛同や支えを得るために、事業実現のきっかけづくりの場として来年以降も続けたい」と話している。

本選チケットは当日券で1,500円。問い合わせは尾崎実行委員長携帯電話090(1027)4137。

「支援センター」を検討 成年後見制度で松本市

中日新聞 2010年11月12日

成年後見に関する相談が増えている窓口＝松本市役所で

松本市は、市社会福祉協議会とともに、認知症の高齢者や知的障害者の財産管理の相談などを受け付ける「成年後見支援センター」の来年度設置に向け検討に入った。親族や弁護士などが務める成年後見人を、法人としての市社協が担う態勢づくりも合わせて検討する。市によると、同様の支援機関の設置は県内市町村で初めてという。



計画では、センターには専門の社会福祉士2人と事務の嘱託職員1人が常駐する。弁護士や司法書士などに週に2回程度来所してもらい、高齢者・障害者の財産や契約に関する相談に乗る。センターの設置の場所や規模は未定という。

法定の成年後見制度は、本人の判断能力が不十分な場合、本人や親族らの申し立てにより、家庭裁判所が成年後見人を選ぶ。後見人は本人に代わり預貯金の預け入れや引き出し、介護・医療サービスの契約、不動産の処分などを行うことができる。

後見人はこれまで親族や弁護士、司法書士などが務めるケースが多かったが、高齢者の増加や後見人の高齢化などで、全国的に法人後見人を社協が務めるケースが増えている。県内でも松本市のほか佐久、上伊那両広域連合で来年度の支援機関設置が検討されている。

松本市では、8カ所の市地域包括支援センターや市高齢福祉課窓口などで相談を受け付けてきたが、相談件数は年々増加。包括支援センターの相談件数は2006年度の91件

が、09年度には343件に達した。こうした背景から相談体制の拡充、法人後見の活用が検討されてきた。

市高齢福祉課の担当者は「社会の高齢化に伴い、高齢者の権利を守ろうという意識が強まっている。市民に法人後見を利用してもらいたい」と話している。（出来田敬司）

茨木の介護事業所を指定取り消し 大阪

産経新聞 2010年11月12日

通院介護サービスを提供したと偽って介護報酬を不正に受け取ったなどとして府は11日、障害者居宅介護事業所「Hank's Friends（ハックス・フレンズ）」（茨木市主原町）に対し、障害者自立支援法に基づき、指定障がい福祉サービス事業者の指定を取り消したと発表した。

府によると、同事業所は平成21年9月から今年2月の間、架空の通院介護サービスを8回提供したとの書類を作成し、介護報酬計7万4909円を不正に受け取った。また事業所申請に必要な常勤管理者が不在にもかかわらず20年5月、不正に事業所指定を受けた。

<新語・流行語大賞>候補60語発表 「AKB48」「ゲゲゲの～」「2位じゃダメなんですか」など

毎日新聞 2010年11月12日

今年の新語・流行語から選ばれ、来月1日に発表される「ユーキャン新語・流行語大賞」の候補語60語が12日、発表された。60語は「現代用語の基礎知識」（自由国民社）読者審査員のアンケートから選出され、この中から審査委員会（藤本義一委員長）らによって大賞・トップテンが決まる。

1 iPad 2 (クロス)カップリング 3 無縁社会 4 3D 5 AKB48
6 KPOP 7 ~なう 8 いい質問ですねえ! 9 名ばかり高齢者 10 イクメン 11 家庭内野党 12 ガラパゴス(ガラケー) 13 ゲゲゲの～ 14 白戸次郎もよろしく 15 生物多様性 16 ダダ漏れ 17 ととのいました 18 どや顔 19 なんで一段一段なんだろう 20 ネットゲ廃人 21 バイクコンシャスライフ 22 パウル君 23 はやぶさ 24 パワースポット 25 フェニックス 26 ブブゼラ 27 ホメオパシー 28 もしドラ 29 もってる 30 モテキ 31 リア充 32 ルーピー 33 一兵卒 34 岡ちゃん、ごめんね 35 壊し屋 36 検察審査会 37 見える化(可視化) 38 ・・ぜよ! 39 剛腕 40 国技を潰す気か 41 酷暑 42 最小不幸社会 43 山ガール 44 終活 45 女子会 46 食べるラー油 47 生きもの会議 48 待機老人 49 脱小沢/親小沢/反小沢 50 断捨離 51 東京スカイツリー 52 年金パラサイト 53 買い物難民 54 ゴルコン 55 本田(ほんださんかけー) 56 アジエンダ 57 33人の奇跡 58 (W杯)ベスト16 59 イラ菅/ダメ菅/菅 60 2位じゃダメなんですか

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行